

第118回HSE (Health care Sales Engineer) セミナー開催のご案内

2020年度調剤報酬改定に向けた半年がスタートします。今回のポイントは「調剤基本料」「薬剤服用歴管理指導料」「地域支援体制加算」といわれており、すでに厳しい意見も多く出ている業界でもあります。財務省主計官からは「すべての企業が生き残れる仕組みにする必要はない」という発言も出ています。2022年からは本格的に団塊の世代が超高齢ゾーンに突入します。「今回の改定も大丈夫だろう」という安易な考えでは、何か起きたときに対応することができません。

1 講義目では他職種と信頼できる連携づくり、また社員の育て方を考えてみたいと思います。薬機法改正を踏まえ2025年に向けた整備が進められています。今後の大きなテーマとして予防と在宅医療が挙げられます。薬局単独ではなくチームとして他職種とどのようにかかわっていくのが重要となります。連携に関われる社員の育成についての取り組みが必要となっています。

2 講義目には、薬機法改正に伴う「オンライン服薬指導」の今後について、「オンライン診療」の展望と合わせて聞いてみたいと思います。今後どのような運用になるか現時点ではわかりませんが、「オンライン診療とセットになる」と医師会からも意見が出ています。すなわちオンライン服薬指導の有無は、オンライン診療の進捗に大きく影響を受けるといえることです。診療のガイドライン化、普及への弊害など実際に運用をしている医師をお呼びし現状をお聞きします。

3 講義目には業界を賑わせたトピック「ドラッグストアの合併」から、ドラッグストア業界の動向を確認したいと思います。ドラッグストア市場は7兆円を超え、調剤事業も業界全体として約8,850億円まで売り上げを伸ばしてきました。気になるあの企業も調剤事業への参入を始めたことは事実です。処方箋発行枚数も現在の8億枚がピークといわれています。これから起こるのは薬局6万店舗とドラッグストアとの処方箋の奪い合いです。新聞、経済紙、ビジネス誌、行政の会議など様々なところから薬局に関する厳しい指摘が見えます。業界にとって追い風となるニュースは一つもありません。それだけ業界は追い込まれた状態といえるのではないのでしょうか。

HSEセミナーは業界唯一の薬局経営セミナーと自負しております。引き続き皆様と一緒に「本物の薬局・薬剤師」を考えていきたいと思っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

11月の開催日は15日・16日になります。

【開催日】 2019年10月18日(金) 13:00~17:00

≪17:15より懇親会(会費5,000円)を企画しております≫

19日(土) 9:00~12:00

【内 容】

● 10月18日(金)

「医療や介護の現場で繋ぎ、巻き込む人材の必要性」(仮)

重田 由美 氏 (一般社団法人日本地域統合人材育成機構 理事長)

「オンライン診療の現状、課題、今後」

黒木 春郎 氏 (日本オンライン診療研究会 会長 外房こどもクリニック 理事長)

● 10月19日(土)

トレンド分析(押さえどころ!)

駒形 和哉 氏 (株式会社Kae マネジメント 代表取締役)

「ドラッグストアの最新動向および未来像を予測する」

岡村 憲之 氏 (株式会社アクティブ・コンサルティング 代表取締役)

【参加費】 50,000円(消費税別)

* 上記参加費は単月参加の費用となります。

【場 所】 ・ リロの会議室「コンフォート田町 会議室G」

東京都港区芝5丁目26-24 田町スクエア6F(旧 東京機械本社ビル)

<参加対象者>

医療機関、介護・福祉事業、薬局の経営者、製薬企業マーケティング担当者

医薬品卸経営相談及び経営企画担当者、医療・介護事業参入予定者など

株式会社^{カエ}Kae マネジメント

連絡先: TEL 03-5829-6659 FAX 03-5829-6679 seminar@kae-management.com

主催: 株式会社 Kae マネジメント 後援: 一般社団法人 日本薬局経営学会

<第 118 回 HSE セミナー 講演紹介>

■テーマ：「医療や介護の現場でつなぎ巻き込む人材の必要性」(仮)

■講師：重田 由美 氏 (一般社団法人日本地域統合人材育成機構 理事長)

地域包括ケア・多職種連携といわれ数年がたったが、まだまだ職種間の壁を高く感じる。薬局にとって、在宅医療参入の障壁の一つにケアマネージャーの存在がある。施設調剤なら看護師の存在も大きいのではないだろうか。介護保険の始まりから約 20 年、まだまだ薬剤師の役割が理解されていない。多職種が集まる勉強会には薬剤師が少ないといわれる。参議院の資料では「薬剤師は他の職種から働きが見えないという指摘に気が付いていない」と辛辣な言葉が並んだ。求められる薬局・薬剤師になるためにはどうしたらいいのだろうか。地域に溶け込むための行動を考えてみたいと思う。来るのを待つのではなく、自ら飛び込む勇気が必要である。

<講師紹介>

平成 5 年に正看護師となり、関西電力病院に勤務。平成 19 年より(公財)田附興風会医学研究所北野病院で医療連携コーディネーターとして活動。平成 27 年独立、平成 28 年 4 月に(一社)日本地域統合人材育成機構 J-RIHDO の代表理事に就任。生き心地の良い社会づくりを目指して、医療や介護に携わる人たちの思考力・対応力・実践力の向上などのセミナーを開催している。

.....

■テーマ：「オンライン診療の現状、課題、今後」

■講師：黒木 春郎 氏 (日本オンライン診療研究会 会長 外房こどもクリニック 理事長)

薬機法改正のポイントはいくつかあるが、「オンライン服薬指導の解禁」は薬局運営を大きく変える予感がする。どのような運用、ガイドラインが作られるのかわからないが、オンライン診療の患者が対象になることが濃厚である。そうするとオンライン診療の動向の把握が必須となる。医師会の中でも賛否分かれる議論であるが、経済産業省の後押しもあり、普及の方向へと議論は進んでいる。では、どんなことが課題となり、今後、何が解決されていくのかの把握が必要である。薬局だけが頑張ってもオンライン服薬指導は進まない。「オンライン診療を制する者は、服薬指導も制する」である。医療機関への情報提供・営業も必要になってくる。

<講師紹介>

医学博士。東京都出身。1984 年に千葉大学卒業。千葉大学医学部付属病院小児科医局はじめ、関連病院などで小児科医として勤務。1998~2002 年は千葉大学医学研究院小児病態学の教官。2005 年 6 月に外房こどもクリニックを開業。医療法人社団 嗣業の会 理事長・院長。現在、千葉大学医学部臨床教授、日本外来小児科学会理事なども務める。所属学会は日本小児科学会、和漢医薬学会、日本ワクチン学会など多数。日本オンライン診療研究会では会長。著書に『プライマリケアで診る発達障害』『小児科漢方 16 の処方』(どちらも中外医学社刊)など多数。

.....

■テーマ：「ドラッグストアの最新動向および未来像を予測する」

■講師：岡村 憲之 氏 (株式会社アクティブ・コンサルティング 代表取締役)

ドラッグストア業界は今後集約化に向けて動くのだろうか。そんなことを彷彿とさせる大型合併が今年動いた。これにより売り上げは約 1 兆円、調剤売上は約 1,000 億円になる。超メガドラッグの誕生である。調剤の展望については「オンライン服薬指導が広がると市場が変わる、そのための準備が必要」と、今回の合併のポイントの一つとして上げている。厚労省は薬局に OTC 販売を推奨しているが、OTC 市場の 8,800 億円はドラッグストアが有している。ドラッグ業界の在宅医療への参入も侮るなかれ。コンビニやスーパーがドラッグストアをライバルと見る中、今後の動向が気になる。「予防、医療、介護、生活」そして「食事」までをカバーしたハイブリット型ワンストップ店舗へと向かっている。ドラッグストアの動向から目が離せない。

<講師紹介>

同志社大学経済学部卒業。百貨店、コンサルティングファームを経て、株式会社アクティブ・コンサルティングを設立。代表取締役社長。中小企業診断士。流通業界において、幅広い分野で経営戦略・販売戦略などに関する経営コンサルティングを展開。

ドラッグストアの経営戦略やチェーンオペレーションに精通しており、ドラッグストア業界のトップクラスのコンサルタントとして高い評価を受けている。海外視察の経験も豊富である

第109回「薬局未来塾」開催のご案内

2020年調剤報酬改定に向けて健康保険組合連合会（健保連）から医療制度改革に関する提案が出されました。「軽症薬の保険適用外し」「調剤基本料の引き下げ+1本化」「薬剤服用歴管理料の必要性の有無」など業界にとっては非常に厳しい提案内容となっています。2022年度からは高齢化が一気に加速をし、先を見据えた財源作りと医療費の抑制が考えられています。今回の提案は健保連の本気度が伝わる内容となっています。

国の理想とする姿と裏腹に敷地内薬局の開発は全国で進んでいます。ドラッグストアは着実に地域の処方箋をかき集めています。それに対し、中小薬局はどう動いているのでしょうか。資本金、経済力では太刀打ちできません。処方箋発行枚数が頭うちの時代を迎え、パイの奪い合いが始まります。どれだけニッチな分野を見つけることができるのか、取り組めるのかが生き残りのカギとなります。対物から対人業務といわれる中、報酬も患者に寄り添った内容へと変化をしていきます。今一度、地域ニーズ・患者ニーズの掘り起こしが必要なのではないでしょうか。数を求める薬局運営はすでに限界を迎えています。質を求める薬局経営への転換が必要になります。

日時： 10月19日（土） 午後12時15分から14時
（昼食を取りながらのランチョン形式です。）

会場： リロの会議室「コンフォート田町 会議室G」
東京都港区芝5丁目26-24 田町スクエア6F（旧 東京機械本社ビル）

会費： 3,000円（*会費は軽食代と会場費となっております。）
※参加費は当日会場にてお支払いをお願いいたします。

テーマ： 2020年度改定に向けた情報整理

- ・ 薬局に求められる患者本位とは
- ・ 健保連が突き付ける薬局改革の脅威
- ・ 大手調剤チェーン、大手ドラッグの動き
- ・ 求められる患者心理の深堀
- ・ あるべき薬局経営の再確認

駒形 公大 氏（株式会社 Kae マネジメント 宣無取締役）

※HSE セミナーに参加していない方でも参加歓迎いたします。

10年先を読むキーポイント

- ・ 「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けた KPI 達成が目指すべき経営指標となる
- ・ 「骨太の方針」に書かれる第4次産業革命、単純作業の ICT 化が薬剤師を大きく変える
- ・ 「調剤業務のあり方」（0402 通知）による調剤助手の解禁で調剤料の適正化が進む
- ・ 薬価の毎年改定は業界全体を揺るがす変化となる
- ・ 2025年には全ての薬局が「かかりつけ薬局」になっている
- ・ 新設区分「地域連携薬局」「専門医療機関連携薬局」が薬局差別化へのキーとなる
- ・ 増えない「健康サポート薬局」政策ミスに終わらせないための行動とは
- ・ 内閣、そして財務省が調剤医療費の適正化を狙っている
- ・ ICT 化による医療の効率化へ、リアル店舗の生き残り戦略とは
- ・ 「かかりつけ薬局」への期待と要望に活路がある
- ・ 「調剤のみの薬局はレッドカード」薬機法改正で業界のリストラが始まる
- ・ 規制改革がドラッグストアの処方箋獲得を後押ししている
- ・ M&Aによる業界の集約が進んでいる。値段がつかない薬局の未来とは
- ・ 薬剤師不足時代の終焉が見えてきた。時代に合わせた入れ替え戦が求められる

第118回セミナー参加申込書

FAX : 03-5829-6679

E-mail : seminar@kae-management.com

フリガナ	
氏名	
会社名	
部署名	
住所	〒
携帯電話番号	
メールアドレス	
備考	

※ 単月の方に後日御請求書を送付させていただきます。

次回、開催日は2019年11月15日、16日になります。

懇親会のご出欠

懇親会のキャンセルにはキャンセル費をご請求させていただきます。

御出席	御欠席
-----	-----

薬局未来塾のご出欠

御出席	御欠席
-----	-----

■会場

リロの会議室 田町 会議室G

東京都港区芝5-26-24
田町スクエア6F (旧 東京機械本社ビル)

JR田町駅より徒歩3分
都営三田線・浅草線田町駅A3出口徒歩2分



※未来塾単体のお申し込みの方は、「未来塾のみ」と備考に記載くださいませ。